



# 三島企業の考える 三島カルチャー

13  
特別編

## 「三島の宝」活かして 文化度の高いまちへ

三嶋大社、三嶋大祭り、美術館や資料館、数々のギャラリーなど、多くの文化資源を有する三島市。これらを有効活用し観光客増加を目指すことはもちろん、市民の文化活動の支援もより豊かな街をつくるべく、いく上で欠かせません。具体的な三島市の文化振興の取り組みについて、豊岡武士市長にお話を伺いました。

——現在の文化振興の取り組みについて、概要を教えてください。

近年の取り組みのベースになっているのが、平成26年に制定した三島市文化振興基本条例です。こうした条例の制定は実は県内市町で三島市が初めてで、先進的な取り組みです。さらに、これを具体的に展開するために平成28年に三島市文化振興基本計画を策定しました。

美しく品格のあるまちを目指すガーデンシティなどの施策により、観光客も増えています。市内の文化施設である、佐野美術館、楽寿園内の郷土資料館、三嶋大社宝物館、三島の街中に点在するギャラリーなどを巡って歩いていただいています。

### 三島に住むことが誇りとなるまちへ

こうした経験を通じて、心の豊かさを育むのはもちろんのこと、これからの時代を担う子どもたちの「創造力・想像力」を伸ばしていきたいと思っています。今の子どもたちが大人になる頃には、今は存在しない仕事に就く可能性が非常に高いということをいわれています。これからの変化の激しい社会を生きていくためには、やはりクリエイティブが非常に重要です。おかげさまで、これまでの実施で少しずつ教育現場にもノウハウが蓄積されつつあります。

こういった取り組みが根付いて初めて、クリエイティブシティとしてのスタートラインに立てるのではと思いますね。

### 新しいものを生み出す 若い力に期待

私自身も三島市出身です。三嶋大社のすぐ東側に住んでいたもので、境内でよく遊んだことを覚えています。宝物館も時々覗いたりして。そういう意味では、歴史と文化には触れてきたと思います。このような昔からあるまちの資産を活かし、新しいものを生み出せるように条例や計画で後押しをしていきたいと考えています。

三島の好きなところはあちらこちらにあつて選べませんが、してあげるのであれば富士山の見えるところが好きですね。鎌倉古道沿いの茶臼山がおすすです。整備をしたので綺麗に富士山を望むことができます。是非訪れてみてください。

多岐にわたる施策を通じ、文化度の高いまちをつくっていきたくと考えています。ここでいう文化度の高いまちとは、市民の皆さんの文化活動が活発になって、心豊かに暮らせるまちということですね。また、その外からも三島に行ってみよう、住んでみようという人が増え、さらに三島に住むことが誇りになればと思っています。

これを實現する具体的な取り組みとして、文化行政の在り方も改革しました。一般的には文化に関する部署は教育委員会の所管ですが、三島市では文化財保護以外の機能を行政部局が所管するように変更しました。そうすることによって、より市民の方々が文化との接点を増やすことができたり、スピーディーに事業を展開できたりするようになります。

——直近で成果が表れている取り組みや、市民のみなさんに知ってもらいたい取り組みにはどのようなものがありますか？

まず、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催は、文化政策の面でも大きな影響があります。内閣府が主導する「beyond2020プログラム」では2020年以降を見据えて、地域社会の



茶臼山展望台から臨む富士山

——三島市ではさまざまな取り組みをしていますが、最後に今後さらに注力したい取り組みを教えてください。

一番は、若い世代の方々に、もっと活発に文化活動に参加してもらうことです。既存の文化団体に入って活動を行うことはもちろんですが、若い方たちで新しいグループを立ち上げてくれるのも大歓迎です。市としては、文化会館の利用料の軽減や、県からの補助金の紹介など、コーディネート役として活動をスタートするための支援をしていきたいと考えています。

また、文化に関する取り組みは、地域の経済活動にもつながってきます。今後はこれまで文化的な活動との接点が少なかった方々も含め、より多くの人に文化に関心を持っていただき、三島の宝である数々の文化的な場所や取り組みを、どのように活かしていくかを一緒に考えていきたいです。その積み重ねが、シビックプライド（市民としての当事者意識）を高め、さらには三島の文化度を高める原動力になるのではないかと考えています。

## 三島市長 豊岡 武士 氏

### プロフィール

1943年三島生まれ。葦山高等学校から日本獣医畜産大学へ進学し、卒業後は静岡県職員となる。農畜産行政に従事したほか、消費生活課長補佐、緊急防災支援室長（初代）を務める。1999年からは静岡県議会議員として活躍し、2010年に三島市長に当選。現在2期目。

### サポーターとして市民の文化活動を後押し

観光資源として文化を活用することが大切な一方で、市内の文化芸術団体の方々に、活発に活動をしていただけるよう支援することも使命のひとつです。代表的な取り組みとして、この2年ほど『みしま

レガシーとなるような文化プログラムを認証しており、三島市では三嶋大祭りが認証されました。このプログラムは外国への発信も視野に入れたものですから、三嶋大祭りが日本を代表する文化として認められたのは嬉しいことですね。これに伴い、外国人の観光客の増加も見込み、5ヶ国語の案内板や、スマートフォンで解説を聞けるアプリなどを現在整備しています。

もうひとつご紹介したいのが、日本遺産登録への取り組みです。これは文化庁が地域の歴史的な魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを認定し、地域住民のアイデンティティの再確認や、地域ブランド向上などにもつながるものです。三島市は箱根町、小田原市ほかと箱根八里街道観光推進協議会をつくり、登録を目指しています。その一環として2017年10月には、三島駅から芦ノ湖までのバスの増便やシェア自動車などの社会実験も実施しました。このルートには、日本百名城のひとつとして選ばれた山中城跡もあり、観光客増加を期待しています。

観光資源として文化を活用することが大切な一方で、市内の文化芸術団体の方々に、活発に活動をしていただけるよう支援することも使命のひとつです。代表的な取り組みとして、この2年ほど『みしま



アニメーション制作ワークショップの様子

三島企業の考える三島カルチャー」は、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。

次回 絵本作家 宮西達也氏